

インフルエンザ予防接種説明書

1. インフルエンザとは

インフルエンザは、ウイルスの感染を受けて、1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然あらわれ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザです。いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強くなります。小児では中耳炎の合併、熱性けいれんや気管支喘息の誘発、まれに急性脳症などの重症合併症があらわれることがあります。

2. 予防接種の効果

インフルエンザワクチンは、感染を完全に阻止する効果はありません。しかし発病や重症化を予防することに関しては効果があるとされています。6歳未満の小児に対しての研究では、60%の有効率と報告されています。また、ワクチンが十分な効果を維持する期間は接種後約2週間後から約5か月とされています。

3. 接種上の注意点

インフルエンザワクチンは鶏卵から作られます。本剤の成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーを呈するおそれのある方は注意が必要であり、本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方は接種が出来ません。

4. 副反応

重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があらわれることがあります、そのほとんどは接種後30分以内に生じますが、まれに接種後4時間以内に起こることがあります。また、接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅斑、掻痒等があらわれることがあります。さらに、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、発赤、腫脹、疼痛等を認めることがあります、通常2～3日以内に消失します。